

今日のトピック インドの経済・市場動向（2018年9月後半）

インドルピーは安値更新、インド準備銀行は追加利上げへ

【インド市場の推移】

インド市場	騰落率または変化幅 (%)				
	基準日 9月20日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.55	0.2	▲1.4	▲4.9	▲11.0
ルピー/米ドル (ルピー)	72.38	0.3	3.7	11.0	12.6
金利					
政策金利 (%)	6.50	0.00	0.00	0.50	0.50
10年国債利回り (%)	8.07	▲0.1	0.2	0.5	1.5
株式指数					
SENSEX (ポイント)	37,121.22	▲1.6	▲3.0	12.5	14.6

(注) データは2018年9月20日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント) 【インドの株式と通貨】 (ルピー/米ドル)



(注1) データは2017年9月20日～2018年9月20日。

(注2) ルピー/米ドルは逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント1 インドルピーは最安値更新 株式市場も通貨安を嫌気し調整

- 8月のトルコショック以降、新興国通貨全般に下落圧力が強まるなか、経常収支が赤字のインドの通貨ルピーにも売りが膨らみ、対米ドルでの下落が続いています。9月13日のトルコの予想を上回る利上げで多くの新興国通貨は反発しましたが、インドルピーは目立った買い戻しがみられず、その後最安値を更新しました。
- インド株式市場は、インドルピーの下落に伴う資金流出懸念や来年に総選挙を控え政治の不透明感が高まっていることなどから9月に入り調整局面を迎えています。

ポイント2 8月の消費者物価上昇率は鈍化 基調的なインフレ率は強含み

- インドの8月の消費者物価上昇率は前年同月比+3.7%と、食品価格の落ち着いた影響で7月の同+4.2%から鈍化しました。ただし、当社が計算する基調的なインフレ率をみると、8月は同+5.1%と、7月の同+5.0%からやや加速しました。通貨安・原油高による調達コストの上昇が要因です。

今後の展開 インド準備銀行は追加利上げへ

- インドルピーの下落に伴い、ルピー建ての原油価格は9月に入り年初来高値を更新しており、基調的なインフレ率は先行きも加速が続く見込みです。また、通貨安・原油高による調達コストの上昇は、家計の期待インフレ率の上昇にもつながりやすいと考えられます。こうした調達コストや期待インフレ率の上昇を踏まえ、インド準備銀行は次回10月の金融政策決定会合で追加の利上げを行うとみられます。
- 株式市場はインドルピーの下落や政治の不透明感が重石となっているものの、インド経済の高い成長率や企業業績の拡大を背景に底堅い展開が期待されます。

ここも
チェック! 2018年9月6日 アジア・マンスリー (2018年9月号)
2018年9月3日 インドの経済・市場動向 (2018年9月前半)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。